



新 牛久ごみ ニュース

平成20年度家庭系ごみは 約210トン削減されました

市民の皆さんにごみの減量に取り組んでいただいた結果、約210トンのごみや資源物が削減されました。まだまだ多くの資源物が家庭ごみに混入しているのが実情です。

☆家庭ごみの削減量は約74トン

平成20年度に家庭や事業所から排出されたごみ総量は約2万8930トンあり、前年度より約500トン(1.7%)の削減となっています。ごみ全体の約80%を占める家庭系ごみについては、2万3282トンで前年度比210トン(約0.9%)が削減されました。

家庭系ごみ削減量の65%を占める資源物の減少は、資源物抜き取りおよび新聞購読店での回収が主要な要因と考えています。また、昨年度から新たに剪定枝などの木くずを資源物として回収に取り組み、家庭ごみの削減に期待をしました。しかし、木くず回収量247トンに対し家庭ごみ削減量は74トンと、木くず回収量の約30%の削減効果しか得られない結果となりました。つまり、家庭ごみから木くずを削減しましたが、それ以上に「燃え

るごみ」や「粗大ごみ」が増加してしまっています。ごみを削減するためには、分別やりサイクルも大切ですが、ごみを出さない工夫も大切です。

☆市民1人1日当たりのごみ排出量は9.1グラムの削減

平成20年度に家庭から排出されたごみを市民1人1日当りに換算すると、前年度より9.1グラム削減し、652.9グラムとなりました。当市の平成22年度目標値である531.6グラムを達成するには、あと121.3グラム削減しなければなりません。これは、ニワトリの卵Mサイズ2個分に相当する重量です。

平成19年度のごみ質分析によると、下記のとおり家庭ごみの中にはまだまだ削減可能なものが含まれています。資源を分別するだけでも約95グラムを削減することが可能です。ごみを捨てる前に、分別ルールを思い出してください。

家庭系ごみ排出量の比較 (単位：トン)

年度	家庭ごみ				家庭資源物	合計
	燃えるごみ	燃えないごみ	粗大ごみ	小計		
20年度	17,219	823	749	18,790	4,491	23,282
19年度	17,298	859	707	18,864	4,628	23,492
比較	△80	△36	42	△74	△136	△210

※プラスチックごみは資源化していることから、家庭資源物に計上しています。

削減可能な家庭ごみの量

削減可能な家庭ごみの種別	削減可能な重量	1人1日当たりの量
生ごみ・レジ袋(家庭ごみ)	約4,040トン	約140グラム
紙類など(混入している資源物)	約2,700トン	約95グラム
計	約6,740トン	約235グラム

☆ごみを排出し続けることの影響
私たちは豊かな地球環境を享受してきましたが、私たちにはこの地球環境を次世代にも引き継ぐ責任があります。今のままの生活スタイルを

継続することは、次の影響が考えられます。市民の皆さんも一緒に考えてください。

①地球温暖化の原因である温室効果ガスは、家庭からも大量に排出されていて、これまでの生活スタイルも要因となっています。このまま排出し続けると、後世に大きな負担を残すことになり、温室効果ガスの削減は、早期に取り組まなければならない環境問題であると、(独)国立環境研究所は警告しています。

②ごみを適正に処理するため、毎年約10〜12億円を要しています。ごみ処理量を削減することができれば、収集経費や焼却経費、埋め立て処分経費を削減することができ、試算では約2億円を節約でき、この削減経費を福祉や教育、道路整備に使うことができます。

③ごみ焼却後、灰は北茨城市や山形県米沢市などの市外にある最終処分場で埋め立て処理をしています。自前施設を持たない当市は、できるだけ埋め立て量を削減し、最終処分場の延命化に努める必要があります。